

道民カレッジ主催講座令和2年度第2回地域活動インターネット講座

シニアの強みを生かす活動 ～シニアが活躍するまちづくり～

講座説明資料



道民カレッジ事務局

<早坂>

道民カレッジ主催講座地域活動インターネット講座。

今回は「シニアの強みを生かす活動～シニアが活躍するまちづくり～」と題して上川圏で活動している道民カレッジ生の西川暢一さんの取組をご紹介します。

講師は北翔大学非常勤講師の谷川松芳先生です。どうぞよろしくお願いいたします。

<早坂>

今回は上川圏シニアリーダークラブ会長でもある西川さん取材しましたので、早速ご覧ください。

西川さん活動動画

<西川さん>

この倶楽部が設立されたのは平成 14 年（2002 年）です。上川圏シニアリーダー倶楽部ということで設立しています。目的は「長年にわたって培ってきた知識・技能を地域社会に提供する指導者として活動し高齢者の社会参加を促し明るい長寿社会づくりの推進に努める」ということにしています。

（1 年の活動回数は？）

だいたい回数にすれば 20～23 回くらい。個別に言えば、「抹茶で健康楽しく茶道を学ぶ会」これは年 12 回やります。それから、「楽しく餅をついて茶菓子を作る」これは年 1 回で必ず 12 月にやる。それから、「上川圏さわやか講演会」これも 10 月頃ですけれども年 1 回やる。その他「楽しくカラオケを学ぶ会」だとか「カーリンコン体験会」だとか、全国の「インドアラベンダーゴルフ大会」これは上富良野でやる。あと今言った上川圏の例会および研修会（年 3 回）の中で必ず講師を決めて講演してもらう。講師はできるだけ私たちの会員でシニアリーダーバンクに登録されている者で構成したいと考えているが、なかなかそれが上手くいかないのが、実態として外部から（講師を）入れてやってもらうこともあるんですけれども今のところそれはないです。ほとんど会員でやっています。今回も会員でやりますけどね。

（入会した動機は？）

動機は、道民カレッジに入ったのが平成 20 年でその中で色々な学びをしているうちに、このシニアリーダー倶楽部の活動が目につきましてちょっと興味を持ちまして、どうなのかなと思ったらたまたま誘われまして、入ったのが平成 25 年です。

(会長としての工夫)

シニアリーダー倶楽部の活動を全部道民カレッジの連携講座にしようという発想にした。

それともうひとつは橋本事務局長を入れたおかげで、その人の発案で会報を作るようになった。これは成果があります。皆さんに毎回連絡するよりも会報を渡せばその月の行事もわかりますし、「これ見てください」と渡すとだいたいは物喋らなくても PR になります。

<橋本事務局長>

メンバーが今 20 人なんですけれども、もう少し人数を増やすことと、活動をもう少し広げられないかなと考えています。

(会員の) 皆さんは楽しく活動していただいているがそれぞれの持っているものを例会や研修会でもっと積極的に講師を務めていただけたら良いのではないかと考えています。

上川圏と名乗っていますので、美瑛・富良野の会員もいらっしゃるんですけれども、範囲が広いので他の市町村からも参加していただけるようになると良いのではないかと。

道北方面は旭川が中心となっていけば望ましいのではないかと思います。

<西川さん>

(活動の課題は?)

どこの団体も直面するのが高齢化ですね。後釜を見つけようとしてもなかなか(見つからない) そんなことでそれが一番苦勞しています。

(講座開催で気を付けていること)

興味が沸く内容であること、気楽に来やすい、交通便の良い場所でやる、経費的に負担が少ないとかそういうことを念頭に置きながら事業を計画しています。

(今後の夢や課題は?)

2019 年に(道民カレッジの) 3,000 単位の学長奨励賞をいただいた。

生涯学習は終わりがありませんから、身体が続く限りは私もやろうと思うんですけれども皆さんも脳の活性化のために一緒に頑張っていたきたいなというのは僕はいつも思っています。

(他に活動をしていますか?)

旭川市科学館のサイエンスボランティアになっている。もう続けて 10 年以上になる。年関係ないと思う。地域で活動するということは、自分のためにもなるし。

特に子どもを対象としてワークショップがあるんですよ。僕は年に 2~3 回は担当者になるんですけれども、私の専門はコマなんです。普通の紙のコマなんですけれども回すと色が出るんですね。イタリアのベンハムという人が考え出したもの。そういうコマ、虹の出る

コマだとか。私はコマが得意でコマを専門に子どもたちにワークショップやっていますよ。
そんなことを楽しみにしてできるだけ身体が動く限りはやろうかなと考えています。

<早坂>

西川さんのインタビューをご覧くださいました。
先生はご覧になってどのような感想を持ちましたか。

<谷川先生>

西川さんの活動を拝見して、高齢化社会というより、まさに、高齢者の時代になりつつあると思いました。

高齢者が主体となり、今までの人生で培ってきたことを地域に還元するという、高齢者の強みを活かした素晴らしい実践活動であります。

また、この活動が人生を謳歌してきた高齢者が地域の一員として当たり前のようにごく自然的に活躍されていることに驚きました。

さらには、高齢者が地域の指導者として自分の出来ることを地域に還元しようとする心意気に感動させられました。

<早坂>

今回はシニアがリーダーを務めていますけれども、高齢者が指導者として活躍するのが当たり前の時代になってきたということでしょうか。

<谷川先生>

はい、そうですね。西川さんの場合は、高齢者というより、地域住民としての意識を強く持たれ、自分に出来ることを自然体で実践されております。

これは、西川さんのお人柄でもありますが、豊富な人生経験や特技などを地域の子も達や地域の方々に還元することは、特別なことではなく地域住民の当然の役割と考え、楽しみながら活動していることでもあります。

つまり、地域で高齢者が活躍することが当たり前の時代を迎えたという証でもあります。

<早坂>

インタビューの中で「会報を作ったことが成果」というお話がありましたけれども、それらについてはいかがでしょうか。

<谷川先生>

会報の発行は、まさにシニアクラブ会員の年齢に相応しい事業であると思いました。

それは、今日の IT、携帯、パソコン時代の中でも長年慣れ親しんできた紙面による情報提供が、会員にとっては安心して読むことが出来るからであります。

クラブやサークルなどの組織的な活動において一番大切なことは、会員の要望に即した会活動であります。

つまり、このシニアリーダークラブの会員の年齢に応じた情報収集と情報提供活動が行われていることでもあります。

今回の西川さんのクラブ活動から組織的な団体活動のあり方を再確認させられました。

<早坂>

一個人の活動だけでなく様々な分野の指導者が集まっているところが強みですね。

<谷川先生>

そうです。

西川さんをはじめ会員の皆さんが、年齢に関係なく常に生涯学習に取り組み自己研鑽に励んでおられること。さらには、個人的な活動を乗り越え、さまざまな方々と協力しあい共同活動に取り組んでおられることに感動させられました。

また、活動が常に発展的であるのは、さまざまな分野の方々がお互いを認め合い、普段から、ふれ合いやつながりづくりという、豊かな人間関係がクラブの強みになっていることでもあります。

<早坂>

もっとももっとこの活動を広げていくにはどのようなことが必要でしょうか。指導者の仲間を増やしていくという視点と、企画した講座への参加者を増やしていくという 2 つの視点があると思うのですが。

<谷川先生>

そうですね。

まず一点は、仲間である会員を増やすことでもあります。そのためには、現在行っている活動内容を広く周知しながらお誘いをすることでもあります。

知人や友人に直接お会いし、会報をお渡ししながら自分の経験的な活動を聴いてもらうことでもあります。楽しい活動であることや自分の生きがいでもあることを伝えながら入会のお誘いをすることでもあります。

二点目は、教育委員会や関係機関及び町内会や老人クラブなどと連携することでもあります。連携することで講座への参加者を増やすこともできると思います。

<早坂>

西川さんはじめ、上川圏シニアリーダー倶楽部の活動が、まちづくりにどのような役割を果たしているか。先生はどのようにお考えですか。

<谷川先生>

そうですね。使命感に満ちた指導者が相集い、ともに楽しみながら何かに取り組むことは、地域の社会教育活動でもあります。

社会教育活動とは以前から地域づくりとかコミュニティ活動などともいわれてきましたが、地域社会で暮らしている皆さんが集まり、自分達の力で何かを創りあげていることは真正銘の地域創生活動であり、地域づくりの実践活動でもあります。

上川圏シニアリーダー倶楽部の活動は、地域づくりに欠かすことの出来ない重要な役割を果たしている実践でもあり、地域住民の模範的な活動であると言えます。

<早坂>

この活動のキーワードはなんでしょうか。

<谷川先生>

- ・シニアとしての自信と誇りを活かす
- ・特技を活かした地域づくりを実践
- ・地域活動が自分の生きがいくくり

<早坂>

「年齢は関係ないと思う。」「生涯学習に終わりはない。」という西川さんの言葉が印象的でした。

<谷川先生>

そうですね。・・・ 西川さんの生涯学習に対するお考えに感動させられましたね。生涯学習は、年齢に関係なくいつでも学びたい時に学び、一生涯にわたって継続されるもので終わりが無いという言葉にはとても重みを感じました。

<早坂>

最後にこの講座のまとめをお願いします。

<谷川先生>

一つは、高齢者が受動的な生き方から、能動的な生き方に変わってきている事例として拝見することが出来ました。これからの高齢化社会は、高齢者が主体者となって地域社会を形

成する原動力になりつつあることを確認できた事例でありました。

二つ目は、地域の仲間が協力しあって、特技などを地域社会に還元していくことの大切さと、そのための学習活動も常に必要になることを教わりました。

三つ目は、このクラブが上川管内という広い圏域で行われていることでもあります。特に、広大な面積の北海道においては、道民がそれぞれの地域で活動し易い体制整備が急務であります。したがって今後は、14 管内の特徴を生かしながら、今回のシニアリーダー倶楽部の活動のような広域事業として取り組むことの重要性が示されたと思います。

最後に、この倶楽部活動からは、地方における高齢者の生きがいづくり、高齢者の社会参加のあり方を学習することができました。

<早坂>

谷川先生、解説どうもありがとうございました。

<谷川先生>

ありがとうございました。

<早坂>

最後までご覧いただき、ありがとうございました。

この講座を視聴した感想をレポートとしてまとめて道民カレッジ事務局に提出すると地域活動必修単位 1 単位が認定されます。

是非、レポートをこちらまでご提出ください。提出は郵送またはメールで受け付けています。提出期限は配信開始から 3 年間です。

お待ちしております。